

3. 11を忘れないために ～災害への備え～

消防団

消防団は、消防署と協力し、火災などの災害発生時に消火活動や救助活動などを行います。また、いざというときに備えた消防訓練や、高齢者世帯への防火訪問など、地域の防災リーダーとしてさまざまな活動をしています。

消防団員は、会社員や自営業、主婦、学生など、それぞれ他に仕事を持っており、災害が発生した場合には、自宅や職場から出動します。地域に密着した消防団だからこそ、災害現場では消防団員が持っている貴重な情報が生かされています。

こんなこと
やっています！

【消防団消防総合訓練大会】

豊平区内各地区の6分団が競い合い、日頃の訓練の成果を発揮しました。



◀指揮者の指揮能力や団員の規律の厳正さが審査される「規律訓練」。

▶大規模地震による火災が発生、要救助者が出たとの想定の下、放水や救助などの時間、正確性を競う「消防総合訓練」。



普段、どのような活動を行っていますか？

春と秋の火災予防運動期間に防火の呼び掛けを行ったり、AED（自動体外式除細動器）講習の講師や団員募集、独居の高齢者宅の住宅用火災警報器設置啓発、冬期間雪に埋まった消火栓の掘り起こしや、火災時の消防のサポートなどを行っています。

消防団のやりがいや、活動を通じ感じていることを教えてください

私は以前、鹿児島で水害に遭い、その体験を広く知ってもらいたいと思ったのが消防団入団のきっかけでした。

消防団のやりがいは、活動を通じて地域に役立っていると感じられるところです。また、最近AEDの講習会に行くと、高齢の方も積極的に使い方を学んでくれます。無理をすることはありませんが、自分にできることをできる範囲で協力し合って、地域の安心を高めていければと思います。



豊平消防団平岸分団
西田 郁子さん

消防団についてのお問い合わせ：豊平消防署予防課 ☎852-2100

こんな
取り組みも
広がっています

災害時 要援護者 避難支援

大きな災害が発生したときに、自分や家族だけの力では安全な場所に避難できなかつたり、避難場所での生活に大きな困難がある人たち（要援護者）を、周りの方（地域住民）が手助けします。

STEP1 支援母体をつくります

日頃からの声掛けや見守り活動などでできた地域の連携の下、町内会、福祉のまち推進センターや自主防災組織などが中心となり、支援母体をつくります。

STEP3 支援者を決め、要援護者と組み合わせます

支援者には、隣近所に住む顔見知りの人などがなることが望まれます。支援者自身が被災することも想定し、複数の人が支援者になるようにします。

STEP2 要援護者の情報や支援者を集めます

回覧板などで支援活動についてお知らせし、要援護者・支援者の希望を募ります。支援母体から直接、要援護者に働き掛けることも有効です。

STEP4 もしものときに備えます

要援護者と支援者が普段から交流を深め、顔見知りになっておくことが大切です。また、もしものときに備えた避難訓練なども行います。



●災害時要援護者避難支援についてのお問い合わせ 区役所保健福祉課活動推進担当係 ☎822-2451

